山口県訪問看護ステーション協議会だより

第36号



発　行　所　山口県訪問看護ステーション協議会
美祢市秋芳町秋吉 5335-1　TEL（0837）62-1156
発行責任者　柴　崎　恵　子

寄　稿　文

訪問看護は在宅ホスピスケアの要

すえなが内科在宅診療所
末　永　和　之



1992年、山口赤十字病院在職中から在宅診療をおこなってきました。当時は訪問看護も訪問看護ステーションもない時代でした。３床の緩和ケア病床に入院中の80歳代の血性腹水の溜まった女性の方が、家に帰りたいと言われました。当時、病棟の看護師を連れて、彼女の家にいくと、彼女の部屋から小川のせせらぎの音が聞こえ、近所の知り合いが赤飯を持ってきて、日常の生活をされていました。１ヶ月のいのちと思っていましたが実際には３ヶ月過ごされ、自宅で看取りました。

地域包括支援ということが声高に言われ、行政主導で行われていますが、居宅（自宅、ホームなど）に於いては日々の生活支援や人生の最終章を如何に看取っていくかはとても大切なことです。チームでおこなわれますが、一番大切なことはその中心は訪問看護師さんと思っています。在宅ではあくまで患者さん、ご家族が主体者で患者さん、家族の生活リズムを崩さないことです。まずは安心して暮らせる医療、看護を提供するとともに、医療、看護、介護、福祉などが連携して、在宅でのスムーズな生活ができるようにチームで支援していくことが大切です。そのチームのコーディネーターとしての要が訪問看護師さんです。訪問看護師さんは実際に利用者さんやご家族に1人で接し、会話し、ケアし、医療的処置を行います。それだけ判断力や技術が必要ですが、利用者さんから信頼され、感謝されますので看護師の冥利につきると思っています。訪問看護師さんの資質としては醸し出る雰囲気、特に温かさ、丁寧さ、やさしさ、明るさ、包容力、広い心、そして看護技術、傾聴するスキル、医療・看護の判断力、コミュニケーション能力、そしてチームの要としてのコーディネーション能力、最後に死生観を持っていてもらいたいと思います。

現場で皆さんを多くの方が待っておられます。今後訪問看護師さんが増え在宅で患者さんが安心して過ごすことができ、人生の最終章を穏やかに終えていけるように支援してください。

在宅歯科医療の重要性

山口県歯科医師会　地域保健委員会　委員　　竹　田　津和稔



高齢者の増加に伴い要支援者・要介護者も増加し、誤嚥性肺炎予防の重要性が認知されてきたことなどで訪問歯科診療の依頼が増加しています。その結果訪問診療に関わる歯科医院は年々増加傾向にあります。

現在、依頼の大半は介護保険施設からです。施設ごとに連携した協力歯科医が相談や定期的な歯科健診などを行い、病気の早期発見（う歯や歯周病など）、口腔の健康維持管理を行っています。しかしながら在宅の要介護者の方においては、歯科治療が必要であっても訪問診療の依頼が少なく、歯科医は積極的に関与できません。結果的に明らかな症状が認められてからの依頼が多く、信頼関係が浅いため痛みを止めるなどの対症療法に留まるケースが大半です。

歯科医療において、要介護の初期段階では治療に対する協力度・理解度は比較的保たれている時期です。身体的・精神的悪化による治療への障害が出る前に積極的な介入を行い、治療計画を立案し口腔機能を改善することが必要です。治療後は、定期的・長期的な健診、専門的口腔ケア、メンテナンスをおこない、信頼関係の構築及び口腔の良好な状態を維持管理していきます。特に誤嚥性肺炎対策では、口腔ケアだけでなく誤嚥を起こす原因となる口腔機能不全、口腔周囲筋群の廃用性症候群に対する早期かつ長期のアプローチが重要です。

訪問歯科診療と訪問看護との連携はシームレスな診療を進めるためには必須です。今後、更なる連携強化が進むことを期待しています。

服薬支援に取り組んでいます

一般社団法人山口県薬剤師会　会長　　中　原　靖　明



地域包括ケアシステムの構築が進められていく中で、街の薬局は、薬や衛生材料の供給拠点としてだけではなく、気軽に健康相談のできる場所としての役割が求められるようになっています。４月からは「かかりつけ薬剤師」の点数が新設されました。そういう流れの中で在宅への機運も高まっていて、いま県内の薬局の３割近くが在宅業務に取り組んでいます。薬局の在宅業務は認知症などで薬がキチンと飲めない方への服薬支援から緩和医療まで、医療と介護にまたがったものとなります。特に最近は残薬の問題が大きく取り上げられることが多く、薬を渡して終わりではなく、キチンと飲んでもらうまでが薬剤師の役割だという認識でいます。ただ、正直なところ薬局での聞き取りだけでは患者さんの服薬状況を正確に把握することが難しく、ケアマネジャーや訪問看護師さんからの情報提供を頼りにしています。もし、在宅で薬をキチンと飲めていない患者さんがおられた場合は、調剤した薬局に情報提供いただけると幸いです。

夫を自宅で看取って

中 山 裕 子

「家で死にたい」という夫のひと言から始まった看取りは、今、思い出しても大切な宝のような時間だった。

手遅れの腎臓癌が見つかった83才の夫は、「何もしなくてよい、このまま静かに逝きたい」と言った。それは野山を駆けめぐる動物たちのように、生きものとしての寿命が来たら、自然の流れで死んでいきたいという「自然死」の選択であった。「何もしなくてよい」という選択に家族は、一瞬怯みはしたものの、その気持はよく分かり「自分もきっとそれを選ぶだろう」と納得した。家族の中で「家で死なせてあげたい！！」という大きな柱が出来たことは、最後までそれが支えとなって、誰の心もぶれることはなかった。

現実に大きな病気が見つかったとはいえ、しばらくの間は今までと余り変らぬ老夫婦の毎日が過ぎていった。ところが、次第に体力の衰えが出て来たのは、亡くなる三ヶ月位前だったろうか。それを機に在宅医療に切り替え、介護保険の利用を進めて頂いた。この事は「妻が夫を家で看取る」ことの壁を、ひとつひとつ解決して頂き、「これならお世話が出来る」と実感の日々だった。

そんな中、もうひとつ有難かったのは職場の理解を得て、娘が夏休み中の孫を連れて手助けに帰ってくれた事である。この事は夫の最後の日々を、どれだけ豊かなものにしてくれたかしれない。

小学生や中学生の孫達は「おじいちゃん」を心配しつつも、日常的には楽しい夏休みだった。リビングにベッドを入れた事で、生活の全てがそこにあった。

台所の音、匂い、皆のおしゃべり、通りがかりに触ってくれる孫たちの手、「死にそうな夫」は普段と変わらぬ中に寝ていた。

ある日は孫の誕生会もやった。皆で「ハッピーバースディー」も歌った。きっと夫は「もしかして、自分は死なないんじゃないだろうか。この家は、何も変りなくやっている」と思ったかもしれない。

一方で、往診の先生は、何時も自然体で「あー、 落ちついていますね。いいですよ」と病人を安心させて下さった。又、看護師さんは優しく接して下さり、手や足をマッサージして下さった。

然し、夫が食べ物も水も受けつけなくなったある日、看護師さんは一枚の紙を差し出した。それは「自然死のメカニズム」と記してあった。いよいよ、その時が来たと察した。そして、死にゆく人の流れを邪魔しない事だと解釈した。

やがて２週間ほどのあるがままのお世話の中で夫は亡くなった。何も劇的な場面が展開した訳でもなかった。例えていうと、車が車線変更するように「スー！」と移行して行った。まさに「お先に失礼します」とでもいうような旅立ちだった。居合せた家族は、唯々心から「さようなら」と別れをし、こうして家での看取りが出来たことを感謝した。先生がいつだったか言われた「家には、不思議な力があります」というのが忘れられない。

そして私は小さい声で「お家でお世話が出来ますよ」と呟いてみる。

新人ナース紹介

訪問看護師を目指したきっかけと実際に働いた感想

小郡訪問看護ステーション　井田信子



私はこれまで、重症心身障害児病棟、呼吸器・腫瘍内科混合病棟で勤務をしました。

重心病棟ではショートステイの受け入れ、呼吸器・腫瘍内科混合病棟ではHOT導入、気管内吸引などの医療処置が必要な方の退院支援や、抗がん剤・放射線治療のため入退院を繰り返す方と関わる機会が多くありました。在宅での生活に不安があり、療養型の病院や施設へ転院となる事や、環境が整わない中で無理をして退院し、数日で再入院される事もありました。「家に帰りたい」という希望を実現させるために出来る限り調整をしましたが、病棟看護師として関わる事の出来る範囲には限界があると感じるようになりました。そのような中で訪問看護に興味を持ち、昨年11月に現在の職場へ就職しました。

実際に働く中で特に印象的だったのは、病院では見た事のない利用者さんのリラックスした表情です。それぞれ疾患を抱えながらも、庭の手入れ、ペットの世話、近所の方と交流される姿などを見て、以前受講した研修で「利用者は“患者”ではなく“生活者”である」と言われた意味がよく分かりました。限られた時間の中で、次の訪問まで安全に過ごす事が出来るように配慮するという緊張感や、病院では値段も気にせずに次々と使っていた物品も工夫をして無駄なく使うなど、慣れない事や大変な事もありますが、利用者さんが温かく受け入れて下さるおかげで、楽しく働く事が出来ています。

これからも、住み慣れた地域での生活を支える訪問看護師として成長していきたいと思います。

訪問看護ステーション紹介

◆訪問看護ステーション アクティブ大内（平成6年1月1日開設）



介護保険以前から活動し、歴史の古い事業所です。
地域の方々が、長くご自宅での生活が続けられるように、
毎日、利用者様とご家族に、笑顔で、安心を届けています。

◆湯田温泉訪問看護ステーション（平成11年12月1日開設）

湯田温泉の中心部にある訪問看護ステーションです。
地域の皆様に信頼され、看護・介護が必要な方が安心して在宅で過すことが出来るよう２４時間対応で頑張ってます。



◆ハートホーム新山口訪問看護ステーション（平成16年12月10日開設）

ハートホーム新山口訪問看護ステーションは山口市全域を１５名の看護師と２名の作業療法士により訪問しています。
住み慣れたご自宅で最期まで生活することをモットーにスタッフ一人ひとりが寄り添う看護・ケアをお届けします。



◆ベルケアーズ訪問看護ステーション（平成28年1月1日開設）



南岩国にあります“ベルケアーズ訪問看護ステーション”です。
地域に根ざし、寄り添う看護をモットーに、看護師５名で頑張っています。
ご利用者さまお一人お一人に合わせた、きめの細かい看護をお届けいたします。

◆すずらん訪問看護ステーション（平成28年7月1日開設）

『そばに寄り添います』
私たちは寄り添う気持ちを看護で提供していきます。
すずらんの花言葉は『再び幸せが訪れる』です。
病と共存していくことになっても穏やかな木漏れ日の中にその幸せを感じるお手伝いが出来ればと思います。



◆やすらぎ訪問看護ステーション（平成11年4月1日開設）



済生会やすらぎ訪問看護ステーションは、看護師７名、リハスタッフ３名で『選ばれるステーション』をモットーに、ご利用者様や御家族が安心した生活が送れるように、寄り添った看護を心掛けて日々努力しています。

◆秋穂訪問看護ステーション（平成25年１月１日開設）

秋穂ビーチのたもと、スタッフ５名で秋穂地域を中心に近隣まで訪問しています。
小児をはじめとした幅広い年齢層の方までご利用可能となっております。
ご利用者様・家族が安心して過ごせるよう、クオリティーの高い看護をお届け致します。



編集後記

今回、在宅生活を支援するチームの皆様とご家族に寄稿して頂きました。
在宅での訪問看護の位置付けが、いかに重要であるか改めて痛感しました。
今後も私達訪問看護師一同は、チームの一員として連携を図り在宅生活を支えていきたいと思います。なお、この度は山口支部が担当になり、新設ステーションと共に山口支部で紹介できていないステーションも合わせて紹介させて頂きました。
ご多忙のところ、快く原稿依頼をお引受けくださり、ありがとうございました。

平成28年10月　機関誌担当　山口支部